

風の駅舎番館（グループホーム）

当初の予定より少し遅れて、平成28年6月に開設しました。入居された方は5名です（なごみかぜ工房3名、風の森2名）開設当初はフル稼働できませんでしたが、現在はほぼフル稼働の状態になっています。その内2名の方は365日へ移行しました。

理想とする風の駅舎番館での暮らしは、限りなく私たちの暮らしに近づけることです。

例えば、好きな物を食べたり飲んだり、好きなテレビを観たり好きな音楽を聴いたり、休日には映画を観にいたりコンサートにいたり、外出に出かけたりとか・・・

そう考えると私たちの暮らしとはかなりの隔たりがあるように思います。おのずと限界があることを認識しながら、少しでも私たちの暮らしに近づけていく努力をあきらめることなく続けていくしかないと思っています。

「地域の中で、普通の暮らしをする」大変大きな命題ですが、あらゆる制度を活用しながら挑戦していきたいと思っています。

風の駅舎番館で、「日中一時支援」と「ショートステイ」を実施できる行政との調整が整いました。現在、体験利用という形で日中一時（日帰り）やショートステイ（宿泊）の受入れを行っています。希望者は36名です。通常の業務に加えてスタッフの配置を厚くしていかなければなりません（受入れ体制の整備が急務）

グループホームにこうした支援が併設されることはきわめて例の無いことだと思います。俗にいう「先進事例」だと思います。先進事例がいつの日か当たり前になっている地域を想像しながら挑戦していきたいと思っています。

国の方針として次の2点が示されています。今後、グループホームに入居できるのは障がい重度であることが条件となるようです（かなりの幅があると想像していますが）報酬も受入れが進むように手厚くなるような改定を検討しているようです。また、軽度の方については地域での一人暮らしを推進していきたいようです。平成30年度から、既存のグループホームが地域で一人暮らしをする方をサポート（巡回訪問）する制度が考えられているようです。

このことも視野に入れながら、式番館、参番館の構想の具体化に向けて動いていきたいと思っています。

グループホームは365日・24時間の支援が必要となります。ぜひ、法人全体として支えていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

（文責：大場）